

液体窒素 単価契約

仕様書

2026年5月

(液体窒素)

1. 品名・規格・数量

液化窒素 純度 99.999 %以上

予定数量 37,170 kg/年

2. 納入場所

国立循環器病研究センター構内の「細胞凍結保存システム用」液体窒素貯留タンク

3. 納入方法

- (1) タンクローリー車により搬送の上、国立循環器病研究センター（以下「当センター」という。）構内の液体窒素貯留タンクへ納入すること。
- (2) 納入期限を順守するとともに、納入にあたっては、事故等が生じないように十分注意すること。
- (3) 緊急時及び災害時を含め、年間を通して 24 時間体制で迅速に供給対応すること。
- (4) 納入時の受け渡しは当センター係員立会いのもと行うこととし、納入の都度、直ちに納品書を提出すること。
- (5) 充填量はタンクローリー車搭載の重量計または液面計にて計測し、充填前と充填後の数値を当センター係員の面前で確認しその場で計量票を提出すること。

4. 納入時期

- (1) 当センターの指定日時に従う事。

5. その他

- (1) 高圧ガス保安法及び医薬品医療機器等法法令を順守し安全の確保を行うこと。
- (2) 液体窒素の注入時、ガス漏れがないか常時点検し、周囲に火気及び引火性、発火性物等のないことを確認すること。
- (3) 注入時は、充填中等の警戒標を掲げ、車両には車止めをすること。
- (4) 納入する液体窒素は、供給証明書を提出したメーカーに限ること。
- (5) 1 日 1 回貯留タンクの点検及びタンク周りの点検と残量確認の上、充填日を当センター担当職員と打ち合わせる事。
- (6) 当センターが保有する細胞凍結保存システムの構成品である液体窒素貯留タンクへの納入であり、充填作業に起因して連動する同システム制御盤にて警報動作が出た場合は供給業者が直ちに細胞凍結保存システムメーカーと協力の上、復旧対応出来ること。
- (7) 当センター所有の可搬容器用液取盤を操作し、可搬式液体窒素供給容器の充填作業を行うこと。充填作業は月 2~3 回程度、1 回あたり 3~4 時間程度。充填スケジュールについては、当センター担当職員と打ち合わせる事。

【参考】

細胞凍結保存システムの主な仕様及び構成

メーカー : 大陽日酸(株)

凍結保存管理システム制御盤 : 貯留タンク液面監視、凍結保存容器警報管理、連動供給機能

液体窒素貯留タンク : 形式 たて置円筒型 TL-5 (5t タンク 1 基)

最大貯蔵量 液体窒素 3,626 kg